

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和6年10月7日(2024.10.7)

【公開番号】特開2023-70738(P2023-70738A)

【公開日】令和5年5月22日(2023.5.22)

【年通号数】公開公報(特許)2023-093

【出願番号】特願2021-183004(P2021-183004)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 Z

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】令和6年9月27日(2024.9.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

、  
ーの演出モードにおいて、第1背景画像と第2背景画像とを含む複数種類の背景画像を切り替えて表示可能であり、

前記背景画像を前記第1背景画像から前記第2背景画像へ切り替えるときに、前記第1背景画像の透明度を漸次高めていく背景フェードアウト表示を実行するとともに、前記第2背景画像の透明度を漸次低くしていく背景フェードイン表示を実行可能であり、

前記識別情報の可変表示を開始するときに、該識別情報の透明度を漸次高めていく識別情報フェードアウト表示を実行可能であり、

前記識別情報の可変表示を終了するときに、該識別情報の透明度を漸次低くしていく識別情報フェードイン表示を実行可能であり、

前記識別情報フェードアウト表示と前記背景フェードアウト表示とを共通の時期に実行可能であり、

前記識別情報フェードイン表示と前記背景フェードイン表示とを共通の時期に実行可能であり、

前記識別情報フェードアウト表示の実行期間よりも前記背景フェードアウト表示の実行期間の方が長く、

前記識別情報フェードイン表示の実行期間よりも前記背景フェードイン表示の実行期間の方が長く、

前記識別情報は、キャラクタ表示を含み、

前記識別情報の可変表示として、スクロールアクションと、該スクロールアクションの開始前に前記キャラクタ表示が動作する開始前アクションと、該スクロールアクションの停止時における停止時アクションと、を実行可能であり、

前記開始前アクションと前記停止時アクションとで、前記キャラクタ表示の態様が異なり、

、  
未だ開始されていない可変表示に対応する保留表示について所定数を上限として更新表示可能であり、

50

前記開始前アクションは、前記保留表示が更新表示されてから実行される、  
ことを特徴とする遊技機。

**【手続補正2】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**0006

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

**【0006】**

上記目的を達成するため、本願発明に係る遊技機は、  
識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって 10

ーの演出モードにおいて、第1背景画像と第2背景画像とを含む複数種類の背景画像を切り替えて表示可能であり、

前記背景画像を前記第1背景画像から前記第2背景画像へ切り替えるときに、前記第1背景画像の透明度を漸次高めていく背景フェードアウト表示を実行するとともに、前記第2背景画像の透明度を漸次低くしていく背景フェードイン表示を実行可能であり、

前記識別情報の可変表示を開始するときに、該識別情報の透明度を漸次高めていく識別情報フェードアウト表示を実行可能であり、

前記識別情報の可変表示を終了するときに、該識別情報の透明度を漸次低くしていく識別情報フェードイン表示を実行可能であり、 20

前記識別情報フェードアウト表示と前記背景フェードアウト表示とを共通の時期に実行可能であり、

前記識別情報フェードイン表示と前記背景フェードイン表示とを共通の時期に実行可能であり、

前記識別情報フェードアウト表示の実行期間よりも前記背景フェードアウト表示の実行期間の方が長く、

前記識別情報フェードイン表示の実行期間よりも前記背景フェードイン表示の実行期間の方が長く、

前記識別情報は、キャラクタ表示を含み、

前記識別情報の可変表示として、スクロールアクションと、該スクロールアクションの開始前に前記キャラクタ表示が動作する開始前アクションと、該スクロールアクションの停止時における停止時アクションと、を実行可能であり、 30

前記開始前アクションと前記停止時アクションとで、前記キャラクタ表示の態様が異なり

未だ開始されていない可変表示に対応する保留表示について所定数を上限として更新表示可能であり、

前記開始前アクションは、前記保留表示が更新表示されてから実行される、  
ことを特徴とする。

このような構成によれば、識別情報の可変表示を好適に見せることができるので、商品性を高めることができる。 40